

あいち環境



2025/10/20

会報 第165号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



「落ち葉と観光客を見守るお地藏さん」

第7回 写真コンテスト 四季部門 「金賞」
永井 健太郎 氏（一般社団法人 愛知県薬剤師会）

目次

委員会活動報告	2	「精度管理研修会（基礎統計コース）受講報告	5
「令和7年度 環境月間講演会」開催報告	3	私の趣味	6
「環境測定分析新任者研修会」受講報告	4	事務局からのお知らせ	8

四季折々

今年は観測史上最も暑い夏であった。屋外プールでは水温が体温を超え熱中症予防の観点から営業を中止、夏の風物詩である高校野球でさえ日中を避け、ナイターで開催するほど暑かった。今年の国内最高気温は群馬県伊勢崎市の41.8℃で歴代最高気温となった。今年は伊勢崎市を筆頭に全国6市町で41℃を超える気温を計測した。歴代の最高気温でも上位22位以内に8市町がランクインするほどの酷暑であった。この最高気温は西日本より東日本の方が観測しやすい傾向にあり、九州や沖縄はランキング上位に入っていない。上位に入っている地域は関東地方、東海地方及び近畿地方に集中している。環境省が地球温暖化に対する危機意識の共有等を目的とし、制作・発表した2100年未来の天気予報では沖縄県を除く全国各地の最高気温が40℃を超え、名古屋

屋では44.1℃に達するとされている。涼しいとされている北海道でさえ40℃を超え沖縄県よりも高くなると推測されているのである。未来では北海道ではなく沖縄県が避暑地とされるのかもしれない。

これだけ暑くなると子供たちの夏休みの過ごし方も変わってくる。昔は午前中の涼しい時間に勉強して午後から屋外で遊びなさいと良く親から言われたものだが、今では午前午後関係なく暑すぎて夜間ぐらいいか外で遊ぶことが出来ないのである。このまま温暖化が進めば子供が野球やサッカーをする際には、屋外作業時に多くの人が着用している空調服を着てプレーするような世の中になってくるのではないだろうか。

文責 日野 栄一

委員会活動報告

◆ 総務委員会

総務委員会では、恒例の「環境に関する喚起標語」作品を年末に募集開始する予定です。特選作品は、令和8年度の協会喚起標語として採用し表彰させていただきます。次回も皆様からの素晴らしい作品をお待ちしております。また、3月には「令和7年度景況調査」の実施も予定しておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

総務委員長 大場 恵史

◆ 企画・広報委員会

○令和7年度第2回目の委員会を7月4日（金）に対面開催にて実施しました。

令和7年度企画・広報委員会体制について定時総会后、初めて対面開催で委員会が行われ、自己紹介及び名刺交換を実施。会報誌あいかんきょう164号は日程通り進行し7月18日（金）に発刊。○令和7年度の委員会活動とスケジュールの説明がされた。

○会報誌あいかんきょう165号について、10月20日発刊会報誌の担当割、スケジュール、記事について説明がされ、監修者の中野委員より表紙写真の選定がされた。

○施設見学会候補地の選定

日野委員から提案された名古屋港水族館に決定し10月24日（金）に開催する。企画・広報委員会の出席者から役割分担を行い、決定次第業務を進めて行く。懇親会も名駅か金山駅周辺にて実施。

○その他の意見

会報誌あいかんきょうの「時の話題」を愛環協会各社の紹介を行ってもいいのではと意見が上がった。愛環協会員になっていても総会以外出席し

ない会社も多いことから新鮮な内容が聞けて面白いのではないかと。他にも面白い内容があれば検討していく。

○懇親会

会員同士の交流を深める楽しい親睦会が開催されました。

企画・広報委員長 石井 良孝

◆ 教育研修委員会

7月25日に精度管理研修会①【基礎統計コース】をオンラインで開催しました。44名が受講し、（株）東海分析化学研究所 夏目氏、（株）ユニケミー 今井氏、（一社）愛知県薬剤師会 小川氏の講師3名にご講演頂きました。全国各地からご参加頂き、受講者数は昨年度の31名から更に増加しました。多数の方にご参加いただきありがとうございます。

9月18日、19日に精度管理研修会②【中堅実務コース】をオンラインで開催しました。上記 夏目氏、小川氏に加え、（一財）東海技術センター 土屋氏、（株）環境科学研究所 牧原氏、愛知県立名古屋工科大学 井上氏にご講演頂きました。

11月13日には環境計量士等研修会をオンライン開催で予定しています。幅広いテーマでの講演を予定しています。多数のご参加をお願いいたします。

教育研修委員長 牛古 誠

◆ 技術委員会（水質、大気、騒音）

令和7年度第2回技術委員会を令和7年9月12日に対面形式にて開催しました。各ワーキンググループにおいて、共同実験に関する企画検討を行いました。

☆水質・土壌ワーキンググループ

今年度は、模擬排水中の全窒素・亜硝酸性窒素を対象とした共同実験を行いました。ご参加いただきありがとうございます。現在結果を取りまとめ

ており、10月下旬ごろには中間報告結果をお知らせできる予定です。また、その結果検討会については12月12日に Niterra 日本特殊陶業市民会館第1会議室にて予定しています。対面とオンラインのハイブリット形式で開催しますので、是非ご参加ください。

☆大気・臭気ワーキンググループ

今年度は、令和8年1月27日に勉強会の実施を計画しています。近江オドエアーサービス株式会社の方に講師を依頼し、臭気測定に関する内容で検討しています。詳細は追ってご連絡いたします。

☆騒音・振動ワーキンググループ

今年度は、令和8年1月～2月ごろに勉強会を計画しています。内容に関して現在議論が進められていますので、改めてご連絡いたします。

技術委員長 伊藤 論志

◆ 災害緊急時対応委員会

災害緊急時対応委員会では、第1回委員会を7月11日に愛環協事務局の会議室にて開催しました。第1回委員会では、令和7年度で更新となる災害協力認定会員名簿の承認作業、6月20日に大阪で開催された災害時相互支援協定の意見交換会の報告、令和7年度の活動予定について話し合いました。令和7・8年度の災害協力認定会員として、44会員のご登録をいただきありがとうございました。

8月22日には、例年開催されている愛知県環境局資源循環推進課主催の「令和7年度災害廃棄物処理に関する研修会」に委員1名が参加し、災害廃棄物処理に関する知見を深めました。

今後の活動予定としては、例年実施しております協定締結自治体との災害訓練を10月28日に実施します。皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

令和7年度 環境月間講演会 開催報告

株式会社 愛研 石井 良孝

6月26日に Niterra 日本特殊陶業市民会館にて愛環協・日環協中部支部共催で「令和7年度 環境月間講演会」を開催し38名が参加しました。

第一部の「愛知発の環境イノベーションの創出について」では、愛知県環境局環境政策部環境政策課近藤雅史課長補佐より、愛知発環境問題や環境政策の変遷、また愛知で開催された国際会議について、愛・地球博の写真も取り込んで私たちにとってもなじみやすい内容でご講演をいただきました。特に、「愛知県における環境の取り組み」や「愛知県環境イノベーションプロジェクト」の、CO₂削減量の見える化やプラスチックのリサイクル、使用済み紙おむつのリサイクルプロジェクトは、とても分かりやすいご説明でした。



講演会の様子

第二部の「アスベスト問題の最近の動向～教訓は活かされているか～」では、愛知県教育大学 創造科学科 健康支援センター榎原洋子特別准教授より、アスベストの歴史、国内外の規制動向、人体に対する影響などをご教授頂きました。併せて、多くの建物や機械に使用されたアスベストについて、大きな災害が起こった後の問題についてもご教授

いただきました。町中にアスベストが散乱されていることを住民の方に納得していただけるように、簡易偏光顕微法を開発され、特許も取得されているお話をお伺いし、災害現場の住民たちに寄り添い、アスベスト被害を最小限にしようとする榊原先生の熱い思いをお聞きし、過去の災害の教訓を今後活かしていかなければならない重要性を改めて学びました。

「令和7年度 環境月間講演会」も前年度同様、多くの方たちと環境について学ぶ場をご提供できたことを嬉しく思います。来年度の講演会も楽しみにしています。



講演会の様子

「環境測定分析新任者研修会」 受講報告

一般社団法人 愛知県薬剤師会 大下 弘哲

6月19日から20日にかけて開催されました、環境測定分析新任者研修会に参加しました。研修会は、環境計量や分析業務に関する知識を倫理・実務の両面から学ぶことができ、有意義な時間となりました。

一日目の午前は、環境計量の仕事についての講義でした。1950年代の4大公害からPFOS及びPFOAなどの現代的な環境問題への移り変わりを基に、環境計量が果たす役割について学びました。分析結果がまとめられた計量証明書という一

枚の紙が、環境問題や社会的信頼の根幹を支えるという講師の言葉が印象に残りました。環境計量の仕事を果たすには、設備や機器といった分析者周辺の環境だけでなく、分析者自身の技術力と責任意識が必要だと再認識しました。

一日目の午後から二日目の午前にかけては、精度の良い測定のために必要なことについての講義をテーマに分けて受講しました。

初めに、サンプリングについての講義を受講しました。サンプリングの精度を確保するためには、目的成分の特性の理解、検体の均一性の保持、そして記録の厳密性が重要であることを学びました。サンプルの採取方法と運搬の注意事項については、実務に直結する部分が多くあり、非常に有益でした。また、日常業務での現場情報や分析結果は環境問題の解決に直結する重要な要素であるという意識をもつことが必要だと感じました。

次に、機器分析についての講義を受講しました。重量分析、定量分析、そして機器分析に用いられる様々な分析方法の基礎知識を学びました。理論に基づいた説明により、日常業務で扱う機器がなぜ選択されて測定に用いられているのかを理解することができました。

そして、検量線と標準物質についての講義を受講しました。検量線と標準物質の基礎知識から、精度の高い分析には適切な検量線の選択と作成を選択することが重要だと学びました。検量線作成の正確さが分析結果に大きく影響を与えることを理解し、日常業務を行う必要があることを再認識しました。

さらに、データの取り扱いについての講義を受講しました。有効数字や外れ値といった基礎知識に加え、データの取り扱いに関する実務的な細かい注意事項を学びました。実務の中において、「なぜこの値が出たのか」「この結果で正しいのか」といった観点を忘れずに取り組む必要があると感じました。

二日目の午後は、労働安全衛生についての講義を受講しました。過去の大規模災害、事件や労働災害の例を基に、実践的な対策方法や労働安全衛生に関する知識を学びました。現場における安全確保の重要性と紫外線などの見えにくいリスクへ

の配慮の必要性を再認識しました。

今回の研修会は、自身が分析者として社会に何を提供しているか、その責任を改めて考える機会となりました。学んだ知識を意識しながらより信頼性の高い分析が行えるよう今後とも努めていきたいと思います。



「精度管理研修会 【基礎統計コース】」受講報告

株式会社 東海分析化学研究所 成田 美和

7月25日に開催されました「精度管理研修会①（基礎統計コース）」をオンラインで受講しました。

日常の測定業務で得られる測定値がどのような値であるか、またどのように解釈するかは大切なことです。得られた値の判断を客観的に判断するために統計的処理を学びました。

本研修会は「基本統計量」・「検定」・「外れ値の検定」の3つの講演が行われました。

「基本統計量」では、基本的な統計量の定義と計算、正規分布の性質を学びました。日常で得られた値から統計的手法を用いて集計しグラフ化すると、一見規則性の無い値のように見えるものがどのような特性を持っているのか一目でわかるようになります。さらに Excel を用いて実際に平均値、分散、標準偏差などを求めました。

「検定」では、得られているサンプルを通して、母集団を推測し、仮説の可否を調べることを

学びました。z 検定や t 検定を用いた手順の流れ、さらに平均値及び平均値の差についての検定の方法を学びました。事例に即した例題で Excel を使って求める実習も行いました。様々な例題を解くことによりどのようなときに、どの検定方法を用いるのかがよく理解できました。

「外れ値の検定」では、Grubbs の検定、Z スコアを学びました。四分位数を用いて箱ひげ図を作成したり、得られたデータのかたよりやばらつきの評価を行う方法を学びました。得られるデータの中には同一集団のデータとして扱う判断ができないものが含まれることがあり、外部精度管理などでの試験の評価を行う場合に役立ちます。

統計で用いられる言葉の定義、計算方法を学んでから、統計的手法を手段として使用し検定の例題を解き、外部精度管理で用いられている試験の評価方法を学びました。

基礎から順に講義が進み、また、Excel を用いる方法もオンラインで学ぶことができ、大変理解がしやすかったです。

本研修会は知識と技術の向上に大変役立ちました。この知識を用いて検査の信頼性の確保や精度の向上に役立て、お客様に対してよりよい検査結果を報告できるように業務に励みたいと思います。



私の趣味

一般社団法人 愛知県薬剤師会 藤山 法士

幼少の頃より水生生物を捕まえることが好きで、今でも潮干狩りや魚釣りを趣味として行っております。

魚釣りは溪流釣りとおオリイカのヤエン釣りが特に好きで、釣れるべき場所と時期で釣れる魚を捕獲し食す「キャッチ&イート」が私のモットーです。

今回はその中でも【拘りの溪流釣り】について紹介します。

ターゲットはイワナ・アマゴ・ヤマメです。

イワナは日本の在来種として6種類があり、近隣ではニッコウイワナ・ヤマトイワナが存在します。

アマゴ・ヤマメは本来明確に生息域を分けて存在していたらしく、ここ中部地方では日本海側の河川でヤマメ、太平洋側の河川でアマゴが生息しているとされています。

また、イワナについても中部地方ではヤマメ域にニッコウイワナ、アマゴ域にヤマトイワナが生息しているとされています。

【釣れるべき場所に拘った釣行】

生息域を考えて特に長野県や岐阜県の分水嶺にて峠を意識して釣りを行っていました。

揖斐川と足羽川・飛騨川と宮川・長良川と庄川・木曽川と梓川などに両方の河川で4種類制覇を目標に釣行していました。



そこで、実際に釣りをを行うと日本海側の河川でアマゴが釣れ、イワナについては河川の底質の影響で外観からは判断しにくい個体がほとんどでした。

しかし、木曽川と梓川の水系で明らかに異なる体色のイワナ2種と木曽川水系でアマゴを捕獲することが出来ました。

帰宅後、アマゴの骨酒のあてに、2種のイワナ・アマゴの塩焼きの食べ比べを行いました。

個人的にはアマゴが一番おいしかったと思いますが、美しい溪流魚を釣り、その味を食べ比べること自体が贅沢極まりないと思っており、これ以上ない思い出になっております。

次はやはりアマゴとヤマメの2種の制覇がどうしても行いたくなり、京都府の水系の桂川と由良川へ赴きました。

桂川水系では上流部が貧弱であったものの、簡単にアマゴを得ることが出来ました。

翌日、分水嶺を超え、由良川の最上流部に赴きました。

溪相は問題ないが水量が少なく、あまり良い条件ではありませんでしたが、小さな沢の合流部で25cmほどのヤマメを捕獲することが出来ました。

本来のヤマメの生息域がアマゴに取り替わり、近隣河川で姿を見ることがなくなったため、現状、最初で最後のヤマメとなっています。



帰宅後、ヤマメを塩バター焼きにして食べましたが、品のある素晴らしい味わいでした。

しかし、美味しく楽しい釣行の裏で、本来生息していないはずの水系でアマゴやニジマスが何度も捕獲され、特定外来種の問題に近い状況が近隣の溪流で起きていることが分かりました。特に近隣の日本海側河川ではアマゴの幼魚の群れをしばし

ば確認しており、その環境に既に定着している少し悲しい事実を知ることもありました。

それでも、食べることにしていえばアマゴもニジマスも十分美味しく、ネイティブな魚と遜色ないので、事実を事実と受け止めしっかり食べていこうと思います。



【手軽にできる場所に拘った釣行】

次に、アマゴをターゲットに川の生態系と水温、水量を基に、手軽に行けるポイント探しを始めました。

適正な水温・生息に見合った水量・餌があればその場に見あった生態系があると考え、18℃以下の水温で川虫の有無を調べ、釣行することを始めました。

近場の市町村を中心に、川の状態を調べ釣りに行った結果、ある山脈の2級河川で良型のアマゴを捕獲することが出来ました。そこは少し離れたところから名古屋の街並みが確認できるような場所です。

適正な環境と生態系の底辺が存在すればその上位の生態系が存在することは必要十分条件であることが実感できる面白い結果となりました。逆に適した環境と生態系の底辺が存在するにもかかわらず魚を捕獲できないのは、自分の技量が原因ということになります。

紹介した少し変わった釣りも河川環境調査で多くのサンプリングや現場調査を行ってきた賜物と思っています。

以上が私の【拘りの溪流釣り】です。



事務局からのお知らせ

【環境計量士等研修会】

令和 7 年 11 月 13 日（木）
オンライン開催

【第 1 回共同実験（水質）結果検討会】

令和 7 年 12 月 12 日（金）
Nitterra 日本特殊陶業市民会館＋オンライン開催

【大気・臭気分野の勉強会】

令和 8 年 1 月 27 日（火）
Nitterra 日本特殊陶業市民会館

【SOP（標準作業手順書）研修会】

令和 8 年 1 月 30 日（金）
Nitterra 日本特殊陶業市民会館



編集後記（山本浩明）

9 月中旬、名古屋では猛暑日が観測され年間の猛暑日日数は 52 日になり、過去最多を更新しました。まだまだ残暑が続いています。

しかし、秋の気配を自宅近くでも感じられるようになりました。朝夕の蟬時雨が聞こえてこなくなり、セミと入れ替わるように秋の虫たちが鳴き始めました。本号が皆様のお手元に届くころは、秋真っ只中で山や街の木々が赤や黄色に色づいていることでしょう。

秋といえば、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋……などを思い浮かべます。

私の趣味は、登山で 10 月に八ヶ岳へ行く計画をしています。八ヶ岳では紅葉と山頂からの素晴らしい眺望に感動し、下山後は温泉と秋の味覚を満喫してきます。

いろいろな楽しみがいっぱいの秋。皆様はどんな秋を過ごしますか？まずは身近な秋を見つけに近くを散策して見てはいかがでしょうか。

最後に、この会報誌は、会員の皆様からご寄稿いただきました原稿等で構成されています。これからも魅力ある会報誌づくりに努めてまいりますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発行人 （一社）愛知県環境測定分析協会
会長 林 辰哉

〒460-0022

名古屋市中区金山 1-2-4

アイディエリア 405 号

TEL : 052-321-3803

FAX : 052-684-4238

E-mail : aikankyo@nifty.com

編集 （一社）愛知県環境測定分析協会 企画・広報委員会

委員長 : 石井 良孝

副委員長 : 柳下 武己

委員 : 中野 雅則、日野 栄一、佐藤 勇人、
渡部 すみれ、松本 貴郁、長瀬 勝、
山本 浩明